学校番号	１１１

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	地理Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	新編詳細地理Ｂ　（二宮書店）						
副教材等	標準高等地図・地図でよむ現代社会（帝国書院）、新編地理資料 2019（とうほう）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・地図に親しみ、常に地図を開いて地名や地形名を調べよう
・世界の様々な国の地域的特性や文化を理解しよう
・統計資料読み取りや、地図・グラフなどの作成ができるようになろう

2　学習の到達目標

・地球環境や世界地誌の基礎を学ぶことによって、国際理解を深め、さまざまな国際問題を考えていく資質を養う。
・環境に対する適応の仕方は国や地域により様々であることを理解することによって、多文化共生の実現の仕方を学ぶ。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	地理的事象に対する関心と問題意識を高め、意欲的に学習に取り組むとともに、自ら世界や地域の課題について主体的に調査できる	世界の諸問題を地理的観点から考察し、文化の多様性を認め、地域の特色を多角的に理解しようとする	地理的な統計資料や地図・グラフなどの読み取り方や作り方を習得することができ	基礎的な地理的事象を歴史・自然・文化などと関連づけて理解することができる
評価方法	フィールドワーク 調べ学習のリポート 定期考査	調べ学習のリポート 定期考査	地理的技能（略地図の作成、統計資料のグラフ化など）の作業 定期考査	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	地図と地理的技能	・地理情報と地図 ・地図と地域調査	○	 ○	○ ○	○ ○	a:現代の世界を知るためには、地図は欠かせない道具であることを知る b:地図を正しく使いこなすために、地図の特徴と限界について正しい知識を持つ c:身近な地域の特色や動向を地図、地形図、グラフなどで把握することができる d: 時差の計算や地球に関する基本的な数値の把握をすることができる。	フィールドワーク 地理的技能の作業 定期考査
2	現代世界の系統地理的考察	・自然環境 ・資源と産業 ・人口と村落・都市 ・生活文化と民族・宗教	 ○	 ○	○ ○ ○ 	○ ○ ○ 	a: 地形や気候など自然環境に人々がどのように適応しようとしてきたかについて関心を高めようとしている。 b: 環境決定論に陥らないように、多角的に人間と自然の関係を捉えようとしている。 c: 地形図の読図やハイサーグラフの作成などの地理的技能を習得することができる。 d: 地理用語（地形名やケッペン記号など）について、その概念を正しく理解することができる。	定期考査

3	現代世界の地誌的考察	・現代世界の地域区分 ・現代世界の諸地域 －中国、韓国、東南アジア、インド、西アジア・中央アジア、アフリカ、EU、ドイツとポーランド、ロシア、アメリカ、ブラジル、オーストラリアとカナダ－ ・現代世界と日本	○ ○	○	○ ○	○	a: 世界の諸地域に暮らす人々の具体的事例に関心を持つ。 b: 環境に対する適応の仕方には様々な違いがあることを学ぼうとしている。 c: 地域や文化を知る上で不可欠な資料を収集し、それを読み取り、地域性を理解しようとしている。 d: 世界の諸地域の自然・生活・文化について、相互の関係を理解し、総合的な知識を深めている。	調べ学習のリポート 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。